

# 令和4年度 学校評価アンケート（教職員評価）

令和5年3月

(評価) A=よくできた B=ややできた C=あまりできなかった D=全くできなかった

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	令和4年度自己評価					令和3年度		今年度の成果	次年度への課題と取組み	学校関係者評価委員の提言		
				A	B	C	D	平均	評価	平均				評価	
1	開かれた学校づくり	学校説明会の実施	生徒による説明のウエイトを増した説明会の実施	29	13	0	0	3.7	A	3.3	A	・オープンハイスクールは、今年度もコロナ禍の中ではあったが、午前・午後の二部構成とすることで密を避け、消毒・換気の徹底、産産配慮の工夫をしたうえで、実施内容を精選し、生徒主体で実施し、参加者(中学生・保護者)のアンケートにおいても高い評価を得られた。 ・学校ホームページを根本的に構築し直し、見やすく、内容も充実したものとなった。 ・「北高だより」は8月号を除く月ごとに、生徒の様子を発信することができた。 ・公開授業も、5月・10月の2回実施することができた。 ・メール配信システムにて、情報提供の機会を多しした。	・メール配信システムの契約を変更し、欠席、遅刻連絡を電子情報で受け取るようにし、改善していく。	○各種調査によると、進学する高校の決定時期は、中3の4月～10月が約5割で、今年度のオープンハイ半日×4回実施のように、コロナ後も未だ積極的に取り組んで欲しい。 ○学校説明会で生徒による説明のウエイトを増しているのは良い取り組みである。 ○統合対象校なので、統合に向けた学校の様子や新高校の情報提供が重要である。HPに項目を設けたり、校長ブログ等で、情報発信を充実させることが必要。 ○より広域での広報が必要。 ○メール配信は頻繁に行っている。 ○地域の夏祭り、もちつき大会で生徒たちが活躍が見られた。今後一層の地域交流の促進を期待する。	
		広報活動の充実(教育活動の広報)	学校紹介パンフレットの更新 「北高だより」の定期的発行 学校HPの更新 公開授業の実施	22	19	2	0	3.5	A	3.3	B				
		広報活動の充実(ニーズ等調査)	中学校訪問の実施、および中学生・保護者のニーズ把握	9	30	2	0	3.2	B	3.1	B				
		地域交流の推進	地域行事への参加 ボランティア活動の実施(全校生による勤労体験等) 福祉施設・幼児施設との交流	15	22	5	0	3.2	B			・本年度は、コロナの影響も落ち着いていくのであれば、もっと地域貢献の幅が広がるであろう。			
		小学校児童との交流	生徒による小学校出前授業の実施	28	13	1	0	3.6	A			・3年ぶりの実施となったが、教育に興味がある生徒が主体的に取り組み、キャリア形成に役立つものとなった。			
2	生徒指導	生活習慣の確立	挨拶・マナー遵守を始めとした基本的な生活習慣の確立	7	27	6	2	2.9	B	3.0	B	・毎朝最寄りのバス停留所まで行き、通学路の安全確保とともに、遅刻の防止に努めた。	○校則の見直しについて、生徒代表とプロジェクトチームを組んで取り組んでいることは評価できる「生活は自ら責任に、心は高く豊かに」の理念に沿って、生徒の「主体性」を育てる開発的な生徒指導を期待する。		
		生徒指導体制の推進	いじめに関するアンケートの実施、及び対策の推進	17	24	1	0	3.4	A	3.5	A	・目安箱を設置し、生徒の意見を聴いて、質問等に対し「お返の放送」などで速くという活動をした。 ・校則検討委員会を立ち上げ、生徒会役員主体で、校則の見直しに取り組み、来年度に向けて継続している。	○生徒の自立指導能力を伸ばす、高めることに対して、教員が組織的に支えることが共通した課題である。 ○授業での演劇の取り組みは興味深い。 ○部活動は教員には負担であるので、OBや外部指導員のサポートが必要。		
		学校行事の充実	文化祭、体育大会、2学年生活訓練合宿等、学校行事の円滑な実施	22	20	0	0	3.5	A	3.5	A	・今年も多くの学校行事に制限がかかるなか、文化祭等の学校行事を生徒会主体で開催した。文化祭では、尼崎のピッコロ劇団の劇団員を講師として招き、昨年以上の素晴らしい演劇になった。 ・今年も多くの学校行事に制限がかかるなか、文化祭等の学校行事を生徒会主体で開催した。文化祭では、尼崎のピッコロ劇団の劇団員を講師として招き、昨年以上の素晴らしい演劇になった。 ・いよいよ部活動の方針のもと、限られた時間で効果的な部活動運営に取り組んだ。 ・来年度は2年連続で全国大会、陸上部でも近畿大会に出場した。	・コロナで学年間の継続が難しくなっている。 ・学年数の減少やコロナで大会の中止等で活動のモチベーションの維持が課題である。		
		生徒の自主性の向上を目指す課外活動の充実	体験入部・部長会議開催・掲示板的活用などによる部活動の活性化	8	19	13	1	2.8	C	3.1	B				
		高社連携の推進	県庁・民間インターンシップの実施 ふれあい看護体験・ふれあい育児体験の実施	12	24	6	0	3.1	B			・県庁インターンシップ2年生5名が参加し、就業に取り組み、高い評価を得た。 ・看護体験や育児体験はコロナの影響で実施できなかった。	○コロナの影響が収まることにも、中断されている各種事業所等の訪問を再開できるように調整が必要である。 ○各種データ分析をもとにした進路指導は素晴らしい。 ○「進路の架」も評価できるものである。 ○本校の強みは、1・2年生の授業で「学びのめ」を起こさせない工夫であると思う。その成果は確実に出現していると思う。週末課題などの取組は継続を期待する。 ○上記のような進路指導への丁寧な取組みをもとに外部に発信してほしい。 ○昨年度も提案したが、3年間の流れをマップにするような工夫をしてはどうか。 ○進路講演会等は大変有意義である。		
3	進路指導	進路意識の向上	社会人による講演会、卒業生進路を語る会の実施 進路ガイダンス・模擬授業の実施	20	21	2	0	3.4	A	3.4	A	・分析したデータを職員会議で共有した。 ・進路の架にまとめ、1年間を通して架を活用できるよう、模試の記録と目標のページを作成した。 ・3年生は最後の最後まで伸びることを伝え、生徒の可能性を信じて職員一丸となり、生徒の進路支援を行った。 ・全校生に対して、進路講演会を実施し、自らの生き方やキャリア形成について考える機会を設けた。 ・模試の分析を業者・学年・進路の教員が行い、活用し、1年2年共に、模試の偏差値が向上した。 ・PTAとの連携について、外部講師による保護者向け進学講演会を実施した。 ・学年教育懇話会等において、本校の指導方針や具体的な進路指導について説明した。	・スタディサポートを3年を通して実施することで、生徒の学習習慣や学習へ捉え方を向上させる必要がある。 ・模試を活用した教職員のPODCAサイクルを回していき、より有効的な進路意識の向上に努める。		
		PTAとの連携	PTA進学講演会の実施、進路相談の充実	13	27	2	0	3.3	B	3.3	A				
		教員の指導力向上	公開授業・研究授業の実施	14	25	2	0	3.3	B	3.0	B	・オープンルーム週間は1学期と2学期にそれぞれ2週間実施し、教科を問わず様々な授業を見学しあった。2学期には1年生の授業でiPadが本格導入され、1年生の授業を見学することで、iPadの授業活用について研修した。 ・デジタル採点システム研修会を実施し、定期考査や小テストにデジタル採点を導入促進された。			
4	教職員の資質向上	小・中学校教員との交流	小・中学校教員との合同研修会実施	7	14	19	1	2.7	C			・苦楽園中学校区の小・中学校が実施している合同研修会に参加し、小・中学校の指導法について研修した。 ・近隣小・中学校へ本校の授業公開を行い、高校での指導について理解を促した。	・コロナ禍が終わり、近隣小・中学校と教科指導に限らず、特別支援や生徒指導等についても意見交換する機会を設ける必要がある。		
		環境整備	落ち着いた学習環境の整備	校内整備・美化の推進	15	23	4	0	3.3	B	3.3	A	・体育館前や武道場裏の樹木の剪定も実施し、環境が整いつつある。 ・中庭の老朽化が目立っているが、清美委員を中心に働きかけ教室の清掃を徹底した後、廊下・教室にワックスがけを実施を継続していく必要がある。	○校舎内外は、きれいに保たれており、好感が持てる。	
6	自ら学び自ら考える力の育成	問題解決的な学習の展開	主体的・対話的で深い学びの実施、小論文指導	11	25	5	0	3.1	B	3.1	B	・総合的な探求の時間では、年間計画に基づき、キャリア教育や進路実現に向けて、小論文指導を積極的に行った。	・これまでの小論文の取り組みと探求の実践についての整理の検討が必要。	○探求を軸にした課題研究は、今後の高校教育の柱になると思う。統合する甲山高校と連携して、地域を巻き込んだ3年間のカリキュラムを新たに検討して欲しい。 ○本校図書館は充実しているため、より一層の生徒の利用促進の工夫が必要。	
		生涯学習の視点に立った実践能力の育成	読書活動の推進(ビブリオバトル、読書マラソン)	14	24	4	0	3.2	B	3.2	B	・ビブリオバトルは、コロナ過であったが、予定通り2回実施し各学年から参加した。	・ビブリオバトル以外にも読書活動を推進する方策の検討が必要。		
		指導方法の工夫による生徒の学力向上	初期指導の充実、週末課題の推進、補充・補習の推進	13	26	3	0	3.2	B	3.2	B	・新教育課程の円滑な移行と本校の特色を持った教育課程の編成に取り組んだ。	・年次進行する教育課程に対応するよう連絡調整をより行い必要がある。		
		評価規準の設定	観点別学習評価を進め、指導と評価の一体化を図る	6	31	5	0	3.0	B	2.7	C	・観点別評価の導入にあたり、県教育委員会から担当指導主事を招き、評価についての研修を行った。	・学年進行とも同時教員間の研修を行う必要がある。 ○ICTを活用しては教員のスキル向上が必要。 ○ICTを活用して生徒が学びを深め、広げることが課題。		
		自主学習の推進	家庭学習習慣の確立	9	23	10	0	3.0	B	3.1	B	・平日および休日における家庭学習の習慣づけのため、週末課題の出題や小テストの実施などの取り組みを行った。多くの生徒が積極的に取り組んでおり、模試の結果や英検の受験の様子等を見ていると、その成果も徐々に表れてきている。	・自主的な学習への取り組みへは、生徒間で意欲の差が出てくることへの対応が必要。		
		8	個に応じた学習指	指導形態の工夫	効果的な習熟度別・少人数授業の実施・生徒との実態に応じた科目設定	10	29	3	0	3.2	B	3.0	B	・1年生より英語重視コースと数学重視コースを設け、自己実現に向けた目標設定を促している。 ・科学探求類型では「科学研究」、社会探求類型では「国際事情研究」を履修し、自己探求を深めている。 ・英語・数学の少人数授業は例年どおり実施できた。	・学級統流があり、これまで実施してきた分割授業や選択科目の維持に工夫を要する。
生徒の状況把握	生活状況調査の実施、生徒面談の充実 効果的な模試結果の実践と情報等の共有	10		31	1	0	3.2	B	3.3	B	・年度当初に面談習慣を設け、生徒の理解に努めている。 ・中学校からの引き続き事項を教員間で情報交換を行っている。	・キャリアパスポートの一層の活用が課題である。			
生徒の学力向上	北高手帳、スタディサブリの活用	10		24	8	0	3.0	B	3.0	B	・北高手帳、スタディサブリの活用では入学前の手帳配布時に、北高手帳の意義と活用法をプリントを配布して説明した。またスタディサブリを全員導入している1学年については、学年の全面的な協力により活用が促進された。	・進路実現ため、学力向上を図るよう、より一層の北高手帳やスタディサブリのより効果的な活用を研究が必要。			
9	安全教育	安全意識の高揚	教職員及び生徒を対象とした心肺蘇生法・AED講習会の実施	18	22	2	0	3.4	A	3.3	A	・感染予防のため、学校生活の中でマスク、換気、手洗い・消毒、飲食の指導を規制緩和の通知などを考慮しつつ職員で共有し、実施した。 ・救急救命法講習を人数限定で実施した。また避難訓練は昨年と同様に実施した。 ・防災学習は昨年同様、薬物乱用防止学習は今年から教室で分散実施した。	・防災訓練では、火災と地震の2回あるので、保健委員の活動などで工夫した内容を盛り込めるように改善していきたい。	○他県の中学校侵入事件を踏まえ、今一度学校の安全対策を見直して欲しい。	
		防災意識の高揚	防災訓練・防災学習の実施	13	25	4	0	3.2	B	3.3	A				
	10	人権教育	確かな人権意識と態度の育成	人権意識を啓発する人権学習HRの実施 人権講演会の実施	10	28	4	0	3.1	B	3.1	B	・今年度は生徒の身近に感じる人権テーマとして、「デートDV」ど「ヤングケアラー」について講演、研修を行った。 ・デートDVの講演会では、寸劇を交えたもので、生徒の理解と啓発に有効であった。	・多種多様な人権課題のうち、生徒たちに身近で理解しやすいテーマをどう示していくかが課題である。	○様々な人権課題に3年間を通じた指導が必要。
	1	特別支援教育	一人一人の多様な教育的ニーズに応じた教育の充実	キャンパスマネージャーと連携を密にした教育相談 特別支援教育コーディネーターを中心とした特別な支援が必要な生徒への指導	13	22	7	0	3.1	B	3.3	B	・キャンパスカウンセリングの積極的な利用により、生徒や職員が次の段階に進むきっかけを作ることができた。	・教員が特別な支援についての知識や理解を深めるための一層の研修が必要である。	○相談窓口を設ける。
	12	地域連携	体験的・実践的な教育活動の推進	生徒会・部を中心とした地域行事へのボランティア活動の実施 地域の老人介護施設や幼稚園への訪問活動の実施	11	28	4	0	3.2	B	3.0	B	・生徒会やダンス部、吹奏学部が地域のイベントに参加し、貢献できた。	・介護施設等の訪問は、今しばらく調整が必要である。	○体験を通して感じる事が、身についたり、深めたりする上で、大切である。
13	学校の特色化	特色選抜入学生活動の充実	1学年での取り組み内容の精選 探究活動及び成果の発表	17	25	0	0	3.4	A	3.3	B	・テーマ研究には昨年同様、教育と探求社の「インターン」を導入し、昨年より充実した内容となり、校内発表会での表彰も生徒たちの達成感を高めるのに有効であった。 ・1学年の夏季補習とのセットで特色選抜入学生のみを対象とする夏季特別講座を実施した。数学の宿題攻略講座やALTを中心とした異文化理解の講座は、少人数指導ができ、生徒の満足度も高かった。 ・特色化推進部教員による個人面談は5月と11月に実施した。特色選抜入学生の学習や進路・類型選択のサポートだけでなく、生徒個々への理解が深まり、その後の探究活動等の指導の面でも有効であった。 ・入学前の手帳配布時に、北高手帳の意義と活用法をプリントを配布して説明した。 ・来年度はオーストラリア研修旅行の代替行事として、8月にTOKYO GLOBAL GATEWAYでのプログラムに参加する「TOG語学研修」を実施する。	・特色選抜入学生に対するプログラムの精選。 「北高手帳」や「スタディサブリ」の活用促進のためのさらなる工夫。 ・事業全般や、特色選抜入学生の活動について、全校的な合意や協力も、いかにしてして実施するかの検討が必要。	○スタディサブリ、北高手帳の有効活用を期待する。	
		各類型および全校の特色ある事業の推進	英語力向上プロジェクトの実践 施設訪問・見学の実施 特色化推進部を中心とした特色類型の取り組みの検討 理科観察実験の内容充実	15	26	1	0	3.3	A	3.4	A				

※ 評価はA~Dの4段階評価 (教職員向け) A=よくできた B=ややできた C=あまりできなかった D=全くできなかった

※ 評価値=(4×Aの人数+3×Bの人数+2×Cの人数+1×D人)÷全体人数 (小数第2位四捨五入で表示) 評価 A≥3.3 B≥2.9 C≥1.6 D<1.6